

メンバー

実施者：一般社団法人 最先端田舎中津川

連携団体：中津川市、北恵那交通株式会社、早稲田大学スマート社会技術融合研究機構電動車両研究所、(株)ガール研究所、(株)早稲田大学アカデミックソリューション、公共交通利用促進ネットワーク、合同会社おでかけかパコ、MoDip

活動目的

- ・低速電動バスを用いた観光ルートの開発と、中心市街地活性化のためのルート運行の両立可能性を検討
- ・ICT化による地方中小バス事業者の業務効率化モデルの提示

対象地域の概要

対象地域：岐阜県中津川市
 (人口) 78,883人
 (世帯数) 28,438世帯
 (高齢化率) 31.7% (国調)



取り組み内容

- ①グリーンスローモビリティ (GSM) による観光交通と生活交通の新たな需要創出実証
 【観光利用】旧中山道を活かしたガイド付き観光ツアー
 【生活利用】中心市街地における高齢者の足確保
→新たな需要創出による収益性の向上



- ②生産性向上と働きがい向上のための地方バス事業者ICT化推進モデルの提示
 ダイヤ編成システムの導入による業務効率化とGTFSデータ整備
 GTFSデータを活用した運行管理・バスロケの導入
→ICTの積極的活用による業務効率化

2019年度の活動実績

- ・IP無線の位置情報とGTFSデータを活用することで、地方バス事業者でも比較的安価に運用できるバスロケが実現できるとの見通しが得られた。
- ・中津川市において駅前再開発計画が検討中であり、GSMの運行と連動させることにより、面的な中心市街地活性化策とできないか、市や関係者と連携した施策を検討している。

期待される成果

地方中小バス事業者におけるICT化の効果を実証、低速電動バスの特性を生かした導入モデルの提示

アピールポイント

地方都市・バス事業者であっても、新たな車両や情報通信技術を取り入れることで、利用者減少による縮小から積極的な利用増加への取り組みへチャレンジする。